

土浦ケーブルテレビ株式会社 放送番組審議会 概要

平成 23 年度の放送番組審議会は 2012 年 3 月 6 日(火)に J:COM 茨城で開催された。

<放送番組審議会委員> (五十音順)

ご出席

岩瀬 市朗様 木村 宏守様 楠 康夫様
中村 忠夫様 宮本 幸男様

ご欠席

坂本 榮様 横山 豊教様

審議会会長選任

委員の互選により会長は中村委員になった。

事業者側から現況報告及び放送法改正、J:COM チャンネルの報告があった。

【質疑応答・意見交換】

(災害時の対応について)

委員 大震災の際に J:COM の緊急体制はどうだったのか？またライフライン情報(電気、水道、ガス)はどこが責任を持って情報を出すのか、いつ復旧するのかがわからなくて混乱した。地元の病院ではNHKの地方版に依頼してテロップを使って情報を繰り返し掲出してもらっていた。現場からの情報はダイレクトなものがほしい。早いのに越したことはないが、確実な情報がほしい。

事業者 緊急時の対応は、会社にマニュアルに従って実施するが、今回は、全てが予想を超える状況にあり、特に通信手段が遮断されている状況で、新しい情報を入手にことに大変苦労をした。ヘッドエンドへ電源を供給するための発電機用の燃料は近隣の企業に協力いただき確保できたため、ヘッドエンドが止まる最悪の事態は避けられた。震災翌日から、行政の防災課と協力し、給水所情報やインフラの復旧状況を3月末まで提供をした。さらに地域の団体と提携した緊急情報の内容やスピードの向上を図っていきたい。

(「土浦桜まつり」について)

委員 大震災の影響で昨年の「土浦桜まつり」は開催が中止になった。今年は開催するので16ヵ所ある会場を取材でまわってほしい。

事業者 情報を収集してできるだけ対応したい。

(J:COM チャンネルのありかたについて)

委員 所属しているNPO法人では J:COM とともに自分たちができることをすすめている。地元の団体が主人公となって情報発信できることが J:COM チャンネルの強みである。イベント番組を生中継していることは知らなかった。あつたらいいなと思っていた。全国的に有名な花火大会に携わっている人や団体を取り上げることで、視聴したい人が増えれば、加入契約を獲得できるものと思う。全国区ではなく地元の本物を撮り続けていくこと、地域を突き詰めていくことがひとつのありかたである。

事業者 ご意見を今後の番組制作に生かしたい。

(J:COM チャンネルの番組について)

委員 『快撮⇒ちば・いばらき行』では、もっと日常の生活圏を元にした情報を発信してほしい。

事業者 大きくわけて関東広域番組と地域に根ざした番組の二種類を制作しており、それぞれに狙いがある。しかし、J:COM チャンネルの原点はあくまでも地域密着である。新たな取り組みも交えながら番組を制作していきたい。1 年かけて作った番組もそのひとつである。

(J:COM チャンネルの番組について)

委員 長期取材となったことで、これまでより J:COM がとても近い存在になった。NPO 法人と企業が一緒に番組を作ったという実感がある。撮影の当日だけでなく事前の打合せもあり、双方が理解しあえたことや、地域メディアの凄さ、番組の作り手の凄さに感動した。

(J:COM チャンネルの番組について)

委員 コミュニティに入り込んでの取材こそが、本来のコミュニティチャンネルの番組と言える。

事業者 阿見アスリートクラブとは、3 年前から「土浦かすみがうらマラソン」の完走を目指す初心者向けの「初めてのフルマラソン教室」を協同で開催している。これは弊社の社会貢献活動の一環であるだけでなく、結果として自治体支援や阿見アスリートクラブの会員募集の機会となり、また熱心なコーチ陣の指導により、参加者の満足度が高い教室となっている。教室の様子は、FOD にアップし、マラソンの HOW TO 番組として放送されている。

(視聴者の年代、関心について)

委員 核家族化、高齢化によって、2 人の世帯が増えている。番組の編成は 20 代から 40 代が対象となっていて、実際に加入している世代とコンセプトが異なるように思う。大震災の影響で、この地域は放射線の影響に関心が高くなっている。正しい放射線の知識を伝えて、風評被害を防ぐような取り組みも必要であり、霞ヶ浦の水が安全なのかななどの情報発信をしてはどうか。

いろいろな番組があること、家庭の端末が多機能なことで、ケーブルテレビを使いこなせていない感がある。もっとシルバー世代に目を向けて、簡単に視聴できる環境づくりをしてほしい。また、花火大会の生中継は好評であった。

事業者 視聴世代は50代、60代が多いようである。ご要望については検討したい。

(加入動機について)

委員 高齢者にとっては、身近な人が出演することがわかるとテレビを見たくなるので、それが加入の動機になる。

(加入推移について)

委員 加入の推移はどうか。

事業者 南の地域はまだこれから加入獲得ができる。前回の審議会の際、加入者は約65,000世帯とお伝えしたが、昨年12月末で約69,000世帯となった。集合住宅の未加入世帯や電波障害施設を含めると約10万世帯がJ:COMチャンネルを視聴できる。加入者を増やすことと、既に加入している世帯からの収入を増やすこと(録画機能の端末をつけてもらう、有料チャンネルを視聴してもらう、他のサービスも利用してもらう)も合わせて取り組んでいる。

委員 花火大会の生中継の際、J:COMチャンネルは音が腹に響かないという意見があった。

事業者 NHKと比較すると機材も人員もかなわないが、改善していきたい。

委員 大掃除(CLEAN UP OUR TOWN)は今年も実施するのか。

事業者 開催場所は検討する必要があるが、今年も実施予定としている。

委員 今後、審議会は毎年3月に開催することとし、合わせて次年度の委嘱をお願いさせていただくようにしたい。

事業者 なお、今回の審議会の模様は、3月12日(月)からの『いいじゃん!』で放送予定である。

以上